

### 第3回四日市市総合計画策定委員会 会議録

■日時：平成31年3月11日（月）10：00～12：45

■場所：四日市商工会議所 3階大会議室

■出席者：

林良嗣委員（委員長）、種橋潤治委員（副委員長）、甘利正晴委員、荒木栄里子委員、上野尚子委員、尾崎彰委員、岸村吉偉委員（代理出席）、杉浦礼子委員、田中幸司委員、田端文音委員、野村愛一郎委員、前田明子委員、増沢陽子委員、水谷重信委員、水谷孝子委員、宮西マリア委員、森寺浩一委員、山下智香委員、渡邊勝幸委員、藤井信雄委員

■欠席者：

山原裕美委員

■議事：

1. 次期総合計画策定に関する市民意見について
2. 次期四日市市総合計画 全体構成骨子（案）について
3. その他

#### 1. 次期総合計画策定に関する市民意見について

- 委員長 ・資料で説明をいただいたように、市長が高校生の意見を直接聞くなど市民意見を聞くことを活発にやっており、大変いいことだと思う。  
・ご質問をいただきたいと思うが、いかがか。
- 委員 P ・資料1のp.27ページ、「子育てしやすいまち」の選択理由で、木曾岬町が子どもに関して学童保育と相談窓口に50%ずつとあり、非常に充実していると感じるが、この背景があれば教えていただきたい。
- 事務局 ・木曾岬町の回答者数が2名ということで、このような結果となっている。参考にはしにくいと認識している。
- 委員 T ・p.16（1）の一番下の行、「子どものスポーツ文化活動」とあるが、スポーツと文化は車の両輪みたいなもので、スポーツ文化という表現はどうかと思う。
- 事務局 ・スポーツと文化については、分けて書くべきというご指摘だと思う。本調査では「スポーツ文化」と一つにまとめてしまったので、今後は、分けた方がいいと考える。
- 委員 S ・アンケート等のとり方について、少し確認させていただきたい。  
・今回、WEBアンケートはdポイントクラブ会員を対象に実施しているが、加入している人達に偏りはないと理解して良いか。あるいはdポイントクラブでスクリーニング等をしているようだが、その場合に気をつけておかなければいけないような読み方があれば教えていただきたい。  
・報告の中で、回答者の居住市町とのクロス集計がところどころあり、それに対する分析の文章もあるが、N値に偏りがあるため、少し危険な分析になってい

ないか。

- ・特に若者向けのアンケートに関して、まとめでは30代以上を子育て世代としているが、既婚・未婚や子どものいる・いないというクロス集計のデータがないなかで、そのような分析をしているので、「載せていないけれども、既婚、未婚の分類でクロス集計をした結果、こういう特徴があった」というものがあれば、開示していただきたい。
- 事務局 ・今回は、NTTドコモが使われていてdポイント会員に登録されている方を対象とした。ある程度、多くの利用者が入っているという理由で採用した。dポイントクラブについては、特段、メンバーに偏りなどはないと認識している。
- ・分析の中でN値が小さい、母数が小さい項目があるというご指摘については、評価検証の中で気をつけていきたい。
- ・30代の既婚・未婚等については、既婚・未婚の別、家族構成についても設問を設けており、クロス集計に反映することは可能であるので、どのような整理ができるか確認してみたい。
- 委員 S ・このようなWEBアンケートをとられることがあれば、1次のスクリーニングで、居住地ごとに何人以上回答が回収できればそこは認めるというまとめ方をすると、より精度の高いデータが得られる。
- 委員 Q ・外国人に対しての情報が見えていないが、その辺りはどうなっているのか。これからも外国人が増えるので、意見を聞いておく必要がある。
- 事務局 ・回答者の中には外国人の方も含まれていると思われるが、人数はわからない。
- ・今後、ある程度の計画案ができてきた段階で、各種団体に意見を求めていきたいと考えており、外国人の団体や集住している地域、大学の留学生などに意見をいただきたいと考えている。
- 委員 長 ・大変かもしれないが、丁寧に外国人の声に耳を傾けることは大切である。

## 2. 次期四日市市総合計画 全体構成骨子（案）について

- 委員 長 ・今、資料を説明いただいたが、四日市の未来について「こういうまちにしたい」というご意見と、「何々なまちにするために何をすればいいか」というアドバイスの2つについて話をしていきたい。
- ・「何々な都市」みたいなのは、戦略プランのところに出ているが、これらはまだ固定されたものではなく、現段階の案である。これらも非常に魅力があると思う。
- ・「四日市市に住み続けたい」とか、「ほかのところに住んでいる人が四日市市に住みたい」となるような取組はもっと進めたらいいし、「どこが駄目か」という課題については改善することも大切である。
- ・これまでも、人口動態や出生率について、あるいは若年層や若い人たちに魅

力あるまちづくりをというご意見もあり、また、社会という観点から、人権やワークライフバランス、スポーツの推進など様々なご意見が出されているが、「こういう都市になるといいのでは」というご意見はいかがか。

- 委員 I
- ・次の10年の間に外国人は増えていくと思う。私はやはりこの先の10年は、ダイバーシティという多様性を認める社会を構築することが大事だと思っており、人権という視点でいろいろな物事を捉えていくことがすごく大事だと思う。
  - ・こんにちには赤ちゃん訪問事業を市から受託し、赤ちゃんがお生まれになったご家庭を全戸訪問しているほか、ファミリーサポートセンター事業も受託しているが、全体を見回すと、アンケートでもあったように、家を建てるなら菰野などの他市町に行く人が多く、四日市市の子育て環境を若い人が良いと思っていないという印象がある。
  - ・また、こんにちには赤ちゃん訪問事業は10年ぐらiyorっているが、当初の年間出生数は3,100くらいだったが今年は2,300ぐらいとすごく減っている。転入者が増えたうえでもこの数字ということは、必ずしも子育てしやすいまちにはなっていないのではないかと思う。
  - ・東員町は、子どもの権利条例を制定したことを機に、これからの次代を担う子どもをどう育てていくか、一人の主体者として育ててほしいという思いが共有されてきたように思う。権利条例をつくる過程でたくさん子どもたち、大人が話し合っ、そういう意識が共有されていると思う。
  - ・規模が違うので四日市市では難しいと思うが、イタリアのレッジョ・エミリア市では、次代のまちを担う子どもたちが自立して主体的に社会に関わり、自分の考えを持っていくことがどれだけ大切かという視点で、幼児教育から見直しを行ってきた。
  - ・ファミリーサポートセンターでも、母親が子どもを荷物のようにあっちこちに預けるところにすごく疑問を感じている。その間、子どもはどうなっているか。保育園・幼稚園のあり方、それから第二の家庭といわれる学童保育のあり方、家庭との関わりということを考えてきた。
  - ・今、青少年の死因1位は自殺である。日本全体の自殺率は下がっているが、青少年だけは増えている。自己肯定感が低いというのも、日本の子どもの特徴である。そういった面からも、親の愛着形成がいかに大切か。子ども主体という考えはこういう考えなんだ、ということを経験している。
  - ・私は「子どもが育つまち、四日市」となるよう強く望んでいる。そのためには、子どもの権利条約に基づき、子どもの権利条例を作っていただくのが一番望ましいと考えているので、ぜひ検討していただきたい。
- 委員 長
- ・「子どもが育つまち」といった視点をいただいた。権利条約の話も出たが、最近、頻繁に虐待のニュースを聞く。子どもの権利条約をベースにしながら、どうやって若い保護者と合意形成ができるかということが重要である。

- 委員 A
- ・子どもへの虐待や暴力の防止という視点で考えると、子どもを守るためには、子どもを育てている大人に対するケアが必要であるが、支援や教育に関するサポートが非常に少ない。家庭や大人を守る、支援する、教育する、サポートするというシステムが整っていないと思っている。
  - ・子育てが尊重される職場づくりの促進、また待機児童を減らそうとする一方で女性が労働力として期待されているというジレンマがあり、バランスの難しさを感じる。
  - ・働き方改革という視点では、ワークライフバランスの視点、多様な働き方を求めるならば、育児・出産に専念できる時間も必要である。残念ながら、今はそういう社会になっていないと感じる。安心して子育てできるという環境をやっぱり社会でつくっていくという意識がいまだに欠けているのではないかと。
  - ・子育てしている 20 代、30 代の母親に話をすると、「川越町へ行きたい、川越町に住みたい」という声をよく聞く。例えば、川越町立の幼稚園は 3 歳児保育を認め、給食もあり、衛生的にも整っている。財政が豊かだからできるということもあると思うが、子育て中の保護者のニーズを拾い上げ、四日市市でもできる「子育てするなら四日市」ということができれば、本当の意味で働く世代の人たちにとっても安心して子育てができるまちになるのではないかと思う。
- 委員 長
- ・親が安心して働ける、特に若い世代の人たちが安心して働ける都市を実現していくべきというご意見だと思う。
- 委員 O
- ・「人生 100 年元気に四日市生活」というテーマについて、当事者である高齢者からすると、「100 年元気に」と言われると非常に辛いと思う。100 歳まで元気でというのは、非常に私は厳しいと思う。
  - ・これまでは、50 歳の方が 80 歳の親を看取るというのが、今は、60 歳の子どもが 80 歳、90 歳の親を看取るという感じになっている。さらにこれからは、70 歳の方が 100 歳の親を看取ることになる。そうすると、体力づくりがすごく必要であるが、私は自信が持てない。もう少し当事者に優しい表現にした方がいいと思った。
  - ・地域包括ケアでは在宅で看取ることが大きな目標になっており、頑張っている地域もあるが、最近では、有料老人ホームやサービス付き高齢者向け住宅が増えている。これらは住宅とみなされるため在宅扱いになっており、バリアフリーの環境と 24 時間体制の相談員がいれば建てることことができる。なお、「看護師 24 時間いますよ」「ヘルパー 24 時間いますよ」というのはオプションであり、それらは住居費と別に介護保険で払わないといけないので、施設に入るような感覚で入居する状況にある。
  - ・一方で、特別養護老人ホームは要介護 3 でないと入れないため、なかには、閑古鳥が鳴いている施設もある。特別養護老人ホームのベッド一つを増やすと、介護保険料が 7 円から 10 円上がる。次期の介護保険料改定の際には、在宅の見直しと特別養護老人ホームの必要性について考えていただきたい。

- ・また、私は県地区の施設に勤めているが、いまの70～80代の人たちは子どもに迷惑をかけたくないという思いを持っておられ、要支援1あたりでお金を持っている場合、ほとんどの人が住替えを始めている。今後10年は、そのような傾向が増えるのではないかと思う。
- ・したがって、感覚的ではあるが、在宅に対するニュアンスを改めていただいた方がいいかもしれないと危機感を感じている。
- ・それと、総合計画の中で大切にしていきたいのが担い手不足である。今日の資料1のp.64で高校生の将来就きたい職業に、医療・介護系が10%となっているのはとても嬉しく思う。その反面、三重県社会福祉協議会が行ったアンケートでは、多くの親は自分の子どもを福祉の仕事に就かせたくないという回答している。子どもが行きたいなら福祉の仕事に就かせていいという程度である。
- ・したがって、担い手の発掘や支援をきちんと行い、担い手不足の解消や質の向上を図ることができれば、「四日市で安心して在宅で住める」ということにつながると思う。地域包括ケアの評価というのをもう少し見直しつつ、担い手確保ができれば、一人暮らしでも見守られながら、安心して人生を終えることができると思う。

委員 長 ・四日市市で、老衰で亡くなることが多いというのは誇るべきことだが、うまくケアされるかとか、家族が応えられるかということが大事である。

委員 E ・WEBアンケートの性質上、正しい情報が伝わっていない部分もある。例えば、四日市市は、伝統的に保育園の保育士数をかなり加配している。公立保育園と私立保育園は同じようにやっているし、公立幼稚園と私立幼稚園の棲み分けも行っている。他市町と比べても、トータルで遜色ないどころか充実しているところもある。都市間比較をするなど、事務局のほうで、その辺りは補強してほしい。

・人生100年時代については、私も当事者として共感する。人生100年というのは、国が年金のコストカットをするために言っているだけで、地域で市民目線に立った表現を考える必要がある。

・子育ての話でも「子どもは育つ、健全に育つ」ということをどう表現しながら子育てするか、響く表現の仕方を考える必要がある。

・総じて、現在、次期計画の案を庁内で検討している段階だが、これから佳境に入る段階を迎えるにあたって、策定委員の皆さんの専門的な観点、ご意見をうかがって反映するような手法を考える必要がある。

・資料をここまで深く読んでいただいている委員の皆さんに、策定委員会だけではなく、原案をつくる分野別の会議にもご参画いただく方が、良い計画ができるのではないかと感じたので、早急に検討をしたいと思います。

委員 R ・アンケートの回答を見ていて思ったのが、「就業の場所があるからいい」という一方で、「働きたい場所がない」という回答があったり、中心市街地の活性化を求めているけれど、実際、中心市街地は夜の方が活発になって、昼間に使

えるような場所はすごく減っているという回答があったりと、世代によって相反する意見がみてとれる。

- ・そういったなかで、お互いが一番求めているものは何なのかという共通項目を考えた場合、家族、友達が近くにいる、「話せる人」が身近にいることはすごく大事なことである。
- ・四日市市の人口はあまり変わってないが、世帯数は増えて、世帯当たりの人数はすごく減っている。そのなかで、いろいろな人とのつながりが希薄になっている。
- ・「話したら気持ちがすっきりした」という意見が多いので、誰かとつながっていたり、誰かと話せたりというのがないと、いいまちになっていかないと思う。
- ・具体的にどうというのは思い浮かばないが、何かすることとか、何かできることをきっかけに、つながりが自然にできると活性化していくと思う。そのために、いろいろな世代に共通項目として提示できればいいと思う。

- 委員長
- ・先週の水曜日に、庁内で開催されている分野別政策検討会議のアドバイザーと市長・副市長とで議論をした。その際、福祉分野の専門の伊藤先生が、四日市市が取り組んでいる「子育てコンシェルジュ」のような、対面できめ細かいアドバイスやサポートをする制度を他の分野でも展開してはどうかという意見を出され、大変よい提案だと思った。「まち再生のコンシェルジュ」を検討してみてもどうか。
  - ・また、中国の上海では人同士がつながる空間的な仕掛けが見られた。具体的には、高層化した住宅地の一角に公園があり、そこには子ども向けだけでなく高齢者向けの遊具を設置していた。その脇にベンチが置いてあって、お母さんと子どもがいた隣に、初老のおばさんがいて話をしていた。そういう仕掛けをすることで自然とコミュニティの場ができていると感じたので、参考にしてほしい。
  - ・それでは、都市や環境という観点で、都市・まちづくりに関してご意見あれば、お聞かせいただきたい。

- 委員 K
- ・四日市市の力を高めるためには、産業基盤を進化・強化していかなければいけない。インフラが整備されてくる中で、産業用地の不足が目立ってきた。周辺市町では、産業用地をさらに供給する方向で動いている。四日市市も内陸部で産業用地を供給していかななくては、企業誘致がしにくくなるのではないかと。
  - ・リニア新幹線の開通が2027年に控えている。この時、四日市は、どう地域の魅力を高め、どう売り込んでいくのか。「住みよいまち四日市」というのを宣伝することで、首都圏から四日市に移住をして四日市で生活し、用事があったら首都圏に行くという生活を選んでもらえるような仕事をいかにつくるかが大事である。
  - ・そのような中で大切なのは、高度教育機関の充実というものもあるのではないかと。四日市で高校や高専、大学などで高度な教育を受ける環境があれば、もっ

と定住する人は増えるのではないか。

- ・これから外国人の労働者や留学生が地域で増えていく。多文化共生の流れをどう作っていくか。これは人権の課題だけではなく、コミュニティの問題ではないかとも思う。つまり、一緒に暮らすことが必要で、もっと同化していかなければいけない。「一緒に仕事しましょう、一緒に遊びましょう」ということをしていかなければいけないと思う。
- 委員長
- ・産業もいろんな種類があるが、市内に誘致できるものをもっと考えなければいけない、その用地をどう捻出していくか。これは土地利用の計画でもあり、メカニズムの研究が必要である。
  - ・首都圏から移住してもらうのにどうしたらいいかという、これは非常に具体的なテーマなので、これに対して何ができるかということを考える必要がある
  - ・リニアは東海道新幹線ができたときは全く時代が違う。ビジネスでの利用だけでなく生活に使われていくので、ワークライフバランスなどを意識しつつ、本当の意味での豊かな生活時代にどう迎えるか。その時に四日市市は何ができたかということを考える必要がある。
- 委員 K
- ・いかに魅力あるまちにしていくか、住みたいまちを実現できるか。これらを実現していくことが移住につながってくる。
- 委員 C
- ・環境分野について、地球温暖化対策に集中しすぎているような印象がある。それ以外に、四日市の西部にある自然の豊かさをどうするかは重要である。市街地に都市機能が集積すれば、自然エリアとのコントラストが出てくる。自然と調和したまちづくりについても配慮をしてもらえるとよい。
  - ・エネルギーだけでなく、廃棄物も含めた資源循環についても、リージョンコアの計画づくりを行う中で検討していただきたい。
- 委員長
- ・自然とのつながりということになると、四日市市は産業とともに自然に親しむ生活が両方とも享受できるため、もっと自然を取り出していく価値は十分にある。自然をテーマに人々を元気づけるような、心のケア的な要素も考えられると思う。
- 委員 C
- ・「自然と調和した」という言い方に付け加えさせていただくと、再生可能エネルギーの推進というのはどこでも言われているが、ご承知のとおり、太陽光も風力系も、自然を使うという反面、自然破壊という要素も孕んでいる。そういうトレードオフの側面にもっと配慮していただきたい。
- 委員 L
- ・個人が生活していくうえでは、子育てや親の介護の問題があるなかでも、仕事を安心してできる環境が整っているというのは住みやすいまちということになるだろう。子どもが安心して伸び伸び育つまちということにもつながる。
  - ・三重交通でも最近、津の営業所では女性の運転ドライバーが徐々に増えている。四日市営業所では、県外からのドライバーも多くなっている。それだけ三重県内の担い手が少なくなっている。
  - ・四日市市は、三重県内でも電車、バスなどの公共交通で多く移動していただい

ている。バスを多く走らせているが、朝夕の時間帯を中心とした慢性的な渋滞による時間ロスも出ているし、人手も多く必要になってしまう。企業の協力が必要になってくるが、出勤形態や時間帯を少しずらすことで、ストレスなく移動できるまちづくり、住みよいまちづくりを行おうといったアイデアもある。

- ・今の時代は車が一番便利だが、変えられる人は公共交通を利用していただけるよう、バス専用レーンとまでは言わないが、もう少しスムーズに移動できる環境が必要である。

- 委員長
- ・渋滞対策はどうか。公共交通運賃を時間帯で変えるなどの工夫もある。インフラはピーク時のために対応しておかないといけないので、ピークをどれぐらい減らすかによって全く都市経営が変わってくる。
  - ・企業でまとめて通勤定期を買ってもらい、出来高払いにすると、課と課の間で競争するぐらいになって、時差出勤すると成績が上がるような仕組みもあるのではないか。

- 委員 G
- ・近鉄も女性の運転手、車掌、駅係員がかなり増えており、管轄している名古屋地区では 70 名を越えている。朝夕の時間帯に人手が集中するため、どうしても泊まり勤務が必要になってくるが、男女別に施設整備を行うには多くの予算が必要となる。また、女性の結婚・出産後の短時間勤務を我々も導入しており、希望者が増えているが、鉄道利用が少ない昼間の時間帯に大勢が働くとなると人員面での限界もある。
  - ・お子さんをしっかり預けられるところがあればありがたい。なお昨年、近鉄百貨店には、社員の子どもを預けられる保育園が開設した。駅の近くにそういう施設を作れば利用者も増えて、また鉄道も利用していただけて、仕事に行きやすいというようなことを会社にも提案しているが、まだそこまで大きな取組としては実現できていない。

- 委員長
- ・駅に保育施設があるということは必要だと思う。ある会社が、社長の肝いりで「膝の上に子どもを乗せて仕事ができる会社にしよう」という取組をしたら、女性の社員が増えて非常に満足度の高い会社になったという話を聞いたことがある。

- 委員 F
- ・健康づくりの活動をしているが、在宅医療の講演会にも行くなど興味を持っている。どうやって元気に過ごすか、病気にならないか、ということも大事だが、今、世界的に一番問題となっているのは孤独対策である。
  - ・その原因の一つとして、免許返納などで移動手段がなくなってしまうと、特に男性が引きこもりになってしまう。引きこもりを防止するためにも移動手段を確保しなければならないが、市内移動に関して言えば、高校生の意見の中にもあったように、南北は良いが東西方向に移動しにくい。
  - ・鉄道もアルファベットの「E」のようで、とにかく移動がしにくい。バス路線もよく見ると櫛のようで、国道 1 号と四日市中心に集まっていくなど、一旦四日市駅に出てこないと次へ移動できない。

- ・先ほど意見があった「内陸部の工業団地の整備」は面白い。そういった人の移動があると交通の流れが変わることが期待できる。内陸部の南北間の移動について、バスや何らかの方法で地域の移動手段を考えれば、孤独や引きこもりなどを防げると思う。
  - ・健康づくりは、資料に記載されているようなことを具体的に進めていければいいのではないか。一つ加えるとすれば、健康というのは「病気にならない」「医者にかからない」だけでなく、「心の健康」が重要である。そのため文化、人との付き合いなどを含めて健康な状態である。そういう点では、地域のコミュニティが大事であり、文化活動、人と人がどう触れ合うのか、その場をどう設けていくのかが一番大事だと思う。
- 委員 長 ・孤独や引きこもりをどうやって解消していくかといった課題については、移動手段の確保が重要である。
- 委員 M ・私は今、津から四日市大学に車で国道23号を使って通っている。平日だと1時間半ぐらい、一番ひどい渋滞だと2時間以上かかってしまう。渋滞してどこか違う道に行こうと思っても、そこも混んでいるので、朝と夕方の渋滞には不便さを感じる。
- ・渋滞の原因は通勤者や物流の事業者が多いので、それは仕方がない。土日であれば津から四日市だと1時間ぐらいで行けることを考えると、どうしたら、交通集中をずらせるかを考える必要がある。
  - ・子育てという点では、これからは働く人にとって、子育てしやすい環境作りのために制度を作ったり、働きやすい環境をつくったりすると、地元で愛着を持ち、地元で働きたいと思ひ、地元で定住するようになると思う。したがって、子育てについて、もう少し深く、どのように支援していくかを考えるべきである。
- 委員 長 ・通学に2時間もかかるのは大変である。その対策としては交通環境を改善することが一つ、もう一つは四日市大学に車で行かなくていい場所に移ってもらうというアイデアもある。
- 委員 M ・今、四日市大学の学生は、近鉄の利用者と三岐鉄道の利用者、車を使っている学生が多い。近鉄富田駅まで鉄道を利用して、そこから三岐鉄道のバスに乗ってくる場合、その間が渋滞して、結局、そこもアクセスが良くないという問題がある。
- ・自動車については、高速道路のインターチェンジからは近いが、学生は行きづらいということがあると思う。
- 委員 長 ・山の方にある現在のキャンパスは別の用途に使うとして、中心市街地に移転してはどうか。その辺りを支援することは考えられないか。「快適に通学できる大学のあるまち」のような感じである。
- 委員 H ・10年前の総合計画策定時と比べると、中心市街地やまちづくりということを取り上げられており嬉しく思う。コアな課題にあがってきたと受け止めている。

- ・最近、中心市街地、特に商店街の中で老朽化した施設を取り壊すことが目立ってきた。空き地の増加、あるいは、新しい時代に向けた建物更新が差し迫ってきたことも課題の一つだろう。
- ・そうなった場合、土地関係は手続きが煩雑なので手間がかかる。その辺をどうやっていくかということが非常に大きなテーマになると思う。前回は触れたが、行政の役割は非常に大きい一方で、まちづくり会社に代表される、民間主導の事業者もきちんとつくって車の両輪にしていけば、まちの更新を進めていく力になるのではないかと感じている。
- ・総合計画は四日市を良くするものだが、「四日市ですべてをやってしまう」という考え方か、「全体として調和をとっていく」という考え方かによって施策はいろいろと変わってくる。例えば、最近ではコンビナート夜景があるが、四日市は観光の目的地とはなりづらい。では、何を指すのかを考えたときに、四日市というのは昔からの宿場町であったように、現代版宿場町構想とか、四日市は一つのハブ的機能を持ったまちとして、伊勢神宮や鈴鹿サーキット、長島周辺の観光地のコア的な、ハブ的機能を果たしていくという考え方でいけば、だいぶ施策は変わってくると思う。
- ・もう一つ思ったのは、働き方、住み方も含まれるが、四日市ですべての機能を満たすのではなく、例えば名古屋にも行けるし、新名神も便利になって京都にも行けるし、といったなかでライフスタイルを考えていくべきである。これからどんどん便利になれば、四日市には住んでいながら、すべてを求めるのではなく、四日市というものを「コアに住むまち」として求めていくという考え方があっていいのではないかなと思う。

委員 長 ・中心市街地をどう受け継いでいくかということについては、待ったなしの時期になっているが、とりわけ近鉄の沿線地域周辺、あるいはJR四日市駅との間の辺りが重要だと思う。

- 委員 D ・製造業への高校生の就業希望が少ないことが残念であるが、感覚に違いがあるのかもしれない。我々、中小企業は、今でも3K職場というイメージがついていて、魅力発信が下手だと感じ、反省している。
- ・四日市市は製造品出荷額等が国内でも上位にいることを、自分たちは誇らしげに思っているが、一番気になるのは人手確保の問題にある。世帯数も人口も増えているが、大手企業の工場ができたことで、他地域からこちらに転入してきていることが非常に大きいと感じている。
  - ・人手不足は、すべての業種業態で直面している。政府主導のもとで「働き方改革」を進められているが、社員が残業や休日出勤をして、少し多めの給料を持ち帰って家族は喜んでいたら、事業主は罰せられましたという話が現実味を帯びてくるなど、危機感を持っている。
  - ・外国人にある程度の労働力を補っていただきたい。私どもも、この6月ぐらいから、ミャンマーの実習生を迎える。もちろん賃金体系も日本の4年制大学卒

業の基本賃金、雇用保険、社会保険、退職金制度など、すべてにおいて日本の正規新入社員の方と同条件という形で来てもらう。今までの研修生と異なり、年数の枠を越えた後、気に入っていただければ、ずっと残っていただける。

・外国人に担い手になっていただこうと思うと、近くには山も海もあり、職もあるという四日市の魅力を発信し、同じような外国人労働者のネットワークの中で、いろいろな企業を選択するという事も可能なので、四日市の魅力を高めることによって、逆につなげていけると考えている。

・我々は、「ものをつくって、出荷して、税金を収めてなんぼ」というところがあるので、そういうところも反省する点はある。

委員長 ・「外国人ネットワークの魅力あるまち」というところか。

委員 B ・「子どもの居場所がない」ということを近所の人が言っていたが、私も同感であり、なかなか近くにいい公園がなく、雨降りの時はどうしたらいいのかと困っている。

・防災と絡めると、災害時の仮設住宅をどこへ建てるかとなると、「公園をつぶして公共用地を」という発想が第一に挙がってくる。四日市市では、本年度から神前地区に用地を確保され、ここ10年で仮設住宅用地を整備する土台ができています。しかし、もう1拠点ぐらい、どこかにつくっておくべきではないのかと考えています。

・小学校の体育館等々を使った一時避難所は一時的なものであり、復旧・復興に向けてどう生活設計をしていくかというのは、仮設住宅に入ってからになる。仮設住宅の整備に係る計画、戸数を明確にして災害に備えることは、ぜひやっていただきたい。

・もう一点は、地域社会が非常に疲弊しかけていることを危惧している。防災活動、自治会活動の担い手になるべき若い人が地域に帰ってきてくれない。65歳まで勤務をする、あるいは、あと少しすれば70歳まで勤務をするとなると、地域で活動して暮らす時間はほとんどない。我々のように、60歳で定年退職すると、「あ、暇になった。時間もある、お金も若干ある。だから、地域に恩返しをしよう」ということで、地域の活動に参加する。そういった考え方の人が10人に1人、もしくは10人に2～3人いたのが、今はほとんどいない。地域の担い手が高齢化して、地域社会が活性化していかない。

・地域マネジャー制度が見直される予定と聞いているが、地域の活性化につながる各種団体の面倒を誰がみるとか、予算とかそういった面の支援は今後、どうなっていくのか少し気がかりである。

委員長 ・全体を防災で貫いていただいたが、高齢者の働き方がフルタイムかつ65歳とか70歳まで定年延長されている。例えば、オランダで普及したワークシェアリングでは、どこの時間帯だと働けるという希望を組み合わせ、完全失業を減らそうとしている事例もある。

委員 N ・今回の会議資料を見せていただいて、グラフ等はきちんと整っているが、件数

が少ないところは信頼度のあるものとなないものが一緒になっており、そういう意識で見ないと、本質から離れた形になるといけないと危惧する。

- ・先ほどから、いろんなところから高齢者の問題、福祉の問題、子どもの問題など出ているが、いろんなことに関わる窓口になっておるのは、自治会であろうと思う。我々が一番危惧しているのは、リーダーのなり手が高齢化していることである。単身世帯が増え、地域のつながりや絆、隣近所同士や親子関係もなかなか希薄になって、コミュニケーションをとることが難しくなっている。
- ・子どもの虐待の問題が出ており、親の教育も必要だということも理解できる。しかしながら、それでいいのかという部分もある。小さいころから道徳や社会のルールを植え付けておかないと、未熟な保護者が増えてくると思う。
- ・防災は、大人になってからでは取り組みにくいので、子どもの時から防災教育を取り入れ、「中学生の役割とはどのようなものか」ということ、防災を通じた人と人との繋がりについて教育していかないといけない。
- ・災害が発生したときに、どういう人に支援が必要か把握できていないと思う。四日市市は自治会加入率 84.5%で他市に比べて高いが、賃貸の集合住宅にお住まいの方を、我々が把握できるような状態にない。有事の際に、その方たちへの支援はできないので、賃貸住宅の管理者、宅建業者に対して、自治会加入率の促進を教育していただくことになっている。また、現在、自治会加入促進条例をつくっていただきたいと、市に要望を提出している。
- ・人生 100 年というのは確かにそうだが、健康のままで 100 歳になるためには、福祉の充実や健康づくりというのは非常に大事である。「なってからどうする」じゃなく、「ならないようにどうするか」という施策を、在宅介護等も踏まえながら進めるべきだと思う。
- ・近鉄四日市駅から東の一带は、戦後に建てた、あるいはそれから少しずつ建て替えた老朽化したまちだという印象を受ける。駅前も、10 年だけでなく、そのずっと先を見据えて、四日市全体の中心市街地をどうするかというところを大きなプロジェクトとして考えていかないといけない。

委員長 ・「継承できるまち」というようなことが必要になると思う。戦後の高度経済成長以降、建物を建てるというのがいいことだったが、あまりにも不調和になってしまっている。今後どうするかというのは、またいろいろ考えをうかがいたい。

委員 P ・四日市のまちを支えるのは人が基本だと思う。基本となる人をつくる鍵は、スポーツを通じた健康づくりにあると思う。しかし、ウォーキングしている人を見ると、足腰がうまく調節できていない人を多く見かけるため、正しい歩行方法をしっかりと指導しないといけない。今の現役世代が高齢期に入っても介護は必要ないという時代になれば最高だと思う。そうすることで、医療費などが削減され、その分は子育て支援に回せるという好循環が生まれることを期待する。

・四日市市ではウォーキングの人气が一番高い。ウォーキングの指導者を各地域に育て、地域ぐるみで健康づくりに取り組む。企業も巻き込んで、一つ前の駅から歩いて通勤するなど、諸々を結びつける運動に展開していければいいと思う。

委員 T ・文化は心の健康のもとになる。文化面の充実により 100 歳までという言葉が苦しくない状況になるとよいと思う。

・一つの方法として、中心市街地のなかに皆さんが集えるような建物を建てていただきたい。例えば、図書館と劇場を一つの建物の中に入れるとか、複合的なものを考えていただくのがいいのではないかな。

・もう一つ、三浜文化会館は、練習に使われているものの、会議室の利用が伸びない状態である。運営委員会では「3年たったばかりですから」という話を聞くが、「3年もたったのだから見直そう」という意識で取組んでいただきたい。

・文化とスポーツは人間が生きていくなかで大切な心の栄養だと思う。人も栄養をあげないと枯れてしまうと思う。

委員 S ・総合計画ということなので、「ゆりかごから墓場まで」というところで、いろいろな施策を打っていく必要がある。ここ数年、出産とか子育てに関しては、どの市町も議論がされているので、課題や市民ニーズをしっかりと反映させ、施策を続けていただきたい。

・介護の問題や義務教育を終えたあとの人たちに対する支援をどうするかという問題には、非常に力を入れなければいけないと思っている。

・高齢者だけでなく、独身であることを選択した 40 代、50 代の単身世帯が多くなっている。また、子どもを持つことが叶わなかった方々が老後を迎えるとなったときに、老々介護の問題とはまた別に、自分一人ですずっとやっていけるかという不安層が、莫大に増えてくると思う。一人ではなく、地域で一緒に暮らし、墓場までいけるようなキーワードを前面に出していくのがいいのではないかな。

・もう一つは、「重点的横断戦略プラン」の 2 番目は、今後 10 年で一番変わっていると思われる部分である。技術的には空飛ぶ車や自動運転が確立されてくると思うが、実際に導入するとなった時に、行政が社会インフラをどれだけ整備できるかが自治体間の力量の差となってくる。そのため、大手・中小ともに市内企業が安心して経営を続けていくことができるよう、サポート体制を充実させることも大事である。

・時代を先読みして、みなとに物流拠点を整備するなど、時代にあった企業活動ができるよう、「四日市に企業を集積していただいたら、時代に取り遅れることなく、企業活動が活発になりますよ」というような拠点をつくっていただきたい。そのことが強みにもなり、その強みを発信すれば、若者が「四日市の企業で働きたい」というような好循環をもたらすことにつながるのではないかと思う。

委員 長 ・産業と物流と人流がお互いに好循環になるような全体の流れ、メカニズムを考えようというご意見です。

委員 Q ・30年近く前に、南米やフィリピン人を中心に日系という形で来た時もそうだったが、企業が人手を必要としている時は面倒をみってくれるが、不景気になったときはポイポイ切り捨てた。その結果、犯罪は増え、交通問題なども増えてきたため、新たな外国人を呼ぶことは慎重に、真剣に考えて欲しい。

・交通安全の面でみると、外国人が集団で自転車に乗っているが、自転車の乗り方が変わってきたので、それをしっかり教えたい。その人達はスクーターにも乗っているが、すごく雑な乗り方をしている。ひょっとすると、運転免許も持っていない、保険に入っていないのではないかな。事故を起こしたらどうなるのか。そういう社会問題を繰り返さないように、慎重にしてほしい。

・日本のバス停にはなぜ屋根がないのか。なぜ、そういう快適さがないのか。それがあったら、もっとバスに乗る気になるのではないかな。

委員 長 ・重要なお指摘が、委員の間でもあった。皆様のご意見が、自分の体験に根ざしたとても素晴らしいことに感心する。ぜひ、事務局にこれらを受け止めていただき、回を重ねるごとにいいものにしていきたい。

・原案の策定段階で、皆さんにも大きな困いではなく、テーマ別に話し合っていただけではどうかというアイデアも出てきたので、今後、事務局と検討する。

・それでは、これで、今日の討議を締めて、事務局に最後のアナウンスをお願いする。

### 3 その他

- ・次回委員会を6/26(水)10:00~12:00で開催。

以上